

# 新 任 教 授 挨 拶



第 38 号

2013年 6 月発行

佐賀大学医学部

〒849-8501

佐賀市鍋島 5 丁目 1 番 1 号

<http://www.saga-med.ac.jp/>

新聞編集委員会

印刷／株昭和堂



看護学科  
看護基礎科学講座  
教授

長家 智子

皆様 はじめまして！  
4月1日に「九州大学  
大学院医学研究院保健学  
部門看護学分野健康支援  
看護学」という、正式名  
称で29文字もあるところ  
から、佐賀大学医学部へ  
異動して参りました。長  
家智子 と申します。前  
任者の井上範江先生が開  
学以来担っておられた  
「看護学科看護基礎科学  
講座の看護援助学」を引  
き継ぎました。

両親を福岡に呼び寄せ  
一緒に住んでいることも  
あり、毎日特急かめを  
使って通勤しているの  
ですが、博多―佐賀間と佐  
賀駅―佐賀大学医学部の  
通勤時間がほぼ同じとい  
う状況に、ようやく慣れ  
てきたところです。鍋島  
キャンパス内の建物の配  
置やシステムをはじめと  
してわからないことが多  
く、毎日が新しいこと、  
驚きの連続です。

私が生まれたのは、佐  
賀県鹿島市です。皆さん  
も祐徳稲荷神社があるこ  
ろといえば、ご存じな  
のではないですか。  
鹿島小学校から鹿島中  
学、鹿島高等学校と進み、  
高校卒業までを鹿島市で  
のんびりと過ごしていま  
した。その頃は、佐賀  
に行く、ということが一

大イベントだったことを  
思い出します。高校卒業  
後、福岡市へと住まいを  
移し、以降ずっと福岡に  
住んでいます。

九州大学医学部附属病  
院(当時)の内科系病棟  
で、高血圧や糖尿病のな  
ど慢性期の患者さんを中  
心に看護し臨床経験を積  
みました。臨床では、3  
年目より実習指導者とし  
て看護学生の実習指導に  
あたり、ここが教育に関  
わる第一歩となりました。

その後、縁があつて母  
校の助手として採用され、  
組織の改組にあわせて九  
州大学医学部保健学科、  
九州大学大学院医学研究  
院保健学部門と組織の名  
称は次々に変わりました  
が、ずっと同じ建物(年  
数がたっており、大学紹  
介の時に高校生から「幽  
霊屋敷のようだ」と言わ  
れた)の中で、教育に携  
わっていました。

専門は基礎看護学分野  
です。基礎看護学といっ  
ても範囲は広いのですが、  
看護技術・看護過程・看  
護教育を中心に、看護学  
生が臨床実践能力を身に  
つけ充実感を持って看護  
を行えるよう教育してき  
ました。特に、基礎看護

技術では、Webを介し  
たe-learningを早期に  
取り入れ、間違い探しビ  
デオをはじめとしたビデ  
オ教材・VODシステ  
ム・ICT活用教育教材  
を開発・活用しています。  
また、大学開発のコンテ  
ンツを臨床看護師に活用  
することで臨床看護師の  
実践能力の向上にも役立  
てています。

このような取り組みに  
対して、第3回日本e  
ラーニング大賞文部科学  
大臣賞、第9回日本e  
ラーニング大賞厚生労働  
大臣賞を受賞しました。

現在も学生の興味を引く  
教育教材を開発し、臨床  
看護師へも応用していく  
取り組みを進めています。  
学生間では、「厳しい  
教員・タイプ(試験対  
策用プリント)つぶし」  
として有名でしたが、卒  
業生が頻繁に訪ねてくれ  
るところをみると、厳し  
さの中にあつた愛情をし  
っかりとらえてくれた  
のだらうと自画自賛して  
います。

基礎教育だけでなく継  
続教育の一端も担い、福  
岡県や福岡県看護協会、  
福岡県医師会など多方面  
からの依頼で、卒後教育  
セミナーや講習会の講師  
を勤め、各地の看護部主  
催による講演、臨床看護  
師の研究指導も数多く実  
施してきました。これも、  
臨床看護師の看護実践能  
力の向上に役立ちたいと  
いう思いがあつたからで  
す。

私の一番の願いは、患  
者にとって根拠を持って  
本当に必要な看護を実践

できる知識と技術を持つ  
看護師を育成すること  
です。そのことを念頭に基  
礎看護技術・看護過程を  
はじめ基礎看護学分野の  
教育を実施したいと考え  
ています。臨床実習指導  
においても、学生のつま  
ずきを早期に見つけ「看  
護の素晴らしさを体感で  
きるよう教育する」こと  
を目標に教育を進めてい  
こうと考えています。

(最後に)  
学生が好きで、どうす  
れば学生が看護への関心  
を深め、社会から期待さ

れる看護師となるかを  
考えて教員生活を過ごし  
てきました。これからも  
その姿勢は変わりません。  
前任校でも、在学生が  
よく部屋を訪ねてきてい  
ました。また、多くの卒  
業生が何年たっても連絡  
をくれるだけでなく、訪  
ねてくれていました。

佐賀大学でも研究室の  
ドアは開けておきます。  
気軽に看護のこと、学校  
のこと、佐賀のこと、そ  
の他いろいろなことを語  
りに来て下さい。お待ち  
しています。

も多かつたからです。  
精神看護学が「保健婦  
助産婦看護婦学校養成所  
指定規則」の教育内容と  
してカリキュラム上に初  
めて位置付けされたのは  
1996年です。それま  
では「成人看護学」の一  
部として「精神疾患と看  
護」という名目で統合さ  
れていました。つまり、  
精神科看護としての歴史  
は長いですが、精神看護  
学としての専門性の歴史  
は非常に浅く、そのため  
精神科看護の効果やその  
方法を研究として明らか  
にする取り組みは、私が  
教員となつてからの17年  
でも劇的に進歩していま  
す。



看護学科  
精神・在宅看護学分野  
教授

藤野 成美

平成25年4月1日付け  
で佐賀大学医学部看護学  
科に着任いたしました。  
どうぞよろしく願ひい  
たします。

平成14年3月、佐賀医  
科大学大学院医学系研究  
科看護学専攻(修士課  
程)の修了生です。当時  
は、佐賀大学で勤務させ  
ていただくことになると  
は全く予想もしておりま  
せんでした。その後、広  
島大学大学院保健学研究  
科保健学専攻(博士課  
程)を修了し、九州大学  
大学院医学研究院保健学  
部門看護学分野で5年間  
勤務後、今日に至つてお  
ります。

看護系大学での教員歴  
は17年ほどですが、一貫  
して精神看護学を担当し  
てきました。精神看護学  
を専門領域とした理由は、  
恩師の影響も大きかった  
のですが、臨床経験を積  
み重ねていくなかで心身  
相関が基盤であると強く  
感じ、心のケアの重要性  
を再認識する場面がとて

たらすのか、精神疾患を  
抱えながら生活の質を高  
めるために、看護師とし  
て何ができるのかという  
課題は、実践を積み重ね  
ながら科学的に追求して  
いく必要があります。ま  
た、このような精神疾患  
を抱えられている患者と  
その家族に対する質の高  
いケアの提供には、精神  
科看護師の実践能力の向  
上や他職種との協働が重  
要になってきます。その  
ため最近では、精神科看  
護師のケアの質向上に向  
けた教育や支援をテーマ  
に研究に取り組んでいま  
す。

一方では、精神疾患が  
5大疾患のひとつになり  
ました。ところが病んだ  
り脅かされるのは、自分  
ではない特別な人におこ  
るものだと思われがちで  
す。しかし、21世紀がこ  
ころの時代といわれるな  
かで、誰でも起こりうる  
可能性があります。また、  
精神科医療において、更  
なる精神科病床の削減、  
入院期間の短縮という国  
の施策と社会構造の大き  
な変革の波が押し寄せて  
きています。

このようなストレス社  
会と揶揄される現代社会  
において、精神的ケアに  
対する看護師への期待は  
大きく、求められる能力  
も多様化、複雑化してい  
ており、看護基礎教育に  
おいて精神看護学の教育  
がとても重要であると考  
えています。精神的ケア

私の主な研究テーマは、  
「統合失調症者とその家  
族に対するケア」「精神  
科看護師の実践能力の開  
発・向上についての研  
究」「多職種協働による  
アウトリーチ支援に関す  
る研究」です。看護は実  
践の科学です。どのよう  
なケアが人々に癒しをも

る看護師となるかを  
考えて教員生活を過ごし  
てきました。これからも  
その姿勢は変わりません。  
前任校でも、在学生が  
よく部屋を訪ねてきてい  
ました。また、多くの卒  
業生が何年たっても連絡  
をくれるだけでなく、訪  
ねてくれていました。

佐賀大学でも研究室の  
ドアは開けておきます。  
気軽に看護のこと、学校  
のこと、佐賀のこと、そ  
の他いろいろなことを語  
りに来て下さい。お待ち  
しています。

も多かつたからです。  
精神看護学が「保健婦  
助産婦看護婦学校養成所  
指定規則」の教育内容と  
してカリキュラム上に初  
めて位置付けされたのは  
1996年です。それま  
では「成人看護学」の一  
部として「精神疾患と看  
護」という名目で統合さ  
れていました。つまり、  
精神科看護としての歴史  
は長いですが、精神看護  
学としての専門性の歴史  
は非常に浅く、そのため  
精神科看護の効果やその  
方法を研究として明らか  
にする取り組みは、私が  
教員となつてからの17年  
でも劇的に進歩していま  
す。



先端心臓病学講座  
教授

尾山 純一

平成25年1月1日付け  
で、医学部先端心臓病学  
講座(寄付講座)の教授

に就任しました尾山純一  
です。1992年に九州  
大学を卒業後、同大学循

を行つていくためには、  
精神疾患の病気だけでな  
く、対象である精神疾患  
と共に生活を行っている  
患者の理解が必要です。  
そこで、生活者として患  
者を理解できるような講  
義内容の工夫や、講義・  
演習と臨床実習の連動を  
常に意識し、学生自身の  
様々な学習経験を生かし  
て臨床実習において患者  
の看護を主体的に追求で  
きるように支援すること  
が、精神看護学に携わる  
教員の責務と考えていま  
す。ひとりでも多くの学  
生さんが、精神看護学に  
興味・関心を抱き、常に  
研究的な視点を持ちなが  
ら精神科看護について考  
え実践する、根気強い実  
践家&研究者に育つてく  
れることを大いに期待し  
ています。

人は、精神障がいの有  
無に関わらず、自分らし  
く生きる権利があり、す  
べての人が変化と可能性  
をもっています。その人  
らしく生きていくために  
は、さまざまな人とのつ  
ながりが必要です。

Students, Be Ambitious.  
既存の事実にと  
らわれず、多くの経験を  
積んで個性を磨き、自己  
成長を遂げてほしいと思  
います。私自身も学生さ  
んとともに喜び、ともに  
悩み、ともに成長したい  
と思っております。どう  
ぞよろしく願ひいたし  
ます。

このようなストレス社  
会と揶揄される現代社会  
において、精神的ケアに  
対する看護師への期待は  
大きく、求められる能力  
も多様化、複雑化してい  
ており、看護基礎教育に  
おいて精神看護学の教育  
がとても重要であると考  
えています。精神的ケア

私の主な研究テーマは、  
「統合失調症者とその家  
族に対するケア」「精神  
科看護師の実践能力の開  
発・向上についての研  
究」「多職種協働による  
アウトリーチ支援に関す  
る研究」です。看護は実  
践の科学です。どのよう  
なケアが人々に癒しをも

る看護師となるかを  
考えて教員生活を過ごし  
てきました。これからも  
その姿勢は変わりません。  
前任校でも、在学生が  
よく部屋を訪ねてきてい  
ました。また、多くの卒  
業生が何年たっても連絡  
をくれるだけでなく、訪  
ねてくれていました。

佐賀大学でも研究室の  
ドアは開けておきます。  
気軽に看護のこと、学校  
のこと、佐賀のこと、そ  
の他いろいろなことを語  
りに来て下さい。お待ち  
しています。

も多かつたからです。  
精神看護学が「保健婦  
助産婦看護婦学校養成所  
指定規則」の教育内容と  
してカリキュラム上に初  
めて位置付けされたのは  
1996年です。それま  
では「成人看護学」の一  
部として「精神疾患と看  
護」という名目で統合さ  
れていました。つまり、  
精神科看護としての歴史  
は長いですが、精神看護  
学としての専門性の歴史  
は非常に浅く、そのため  
精神科看護の効果やその  
方法を研究として明らか  
にする取り組みは、私が  
教員となつてからの17年  
でも劇的に進歩していま  
す。

平成25年1月1日付け  
で、医学部先端心臓病学  
講座(寄付講座)の教授

に就任しました尾山純一  
です。1992年に九州  
大学を卒業後、同大学循

を行つていくためには、  
精神疾患の病気だけでな  
く、対象である精神疾患  
と共に生活を行っている  
患者の理解が必要です。  
そこで、生活者として患  
者を理解できるような講  
義内容の工夫や、講義・  
演習と臨床実習の連動を  
常に意識し、学生自身の  
様々な学習経験を生かし  
て臨床実習において患者  
の看護を主体的に追求で  
きるように支援すること  
が、精神看護学に携わる  
教員の責務と考えていま  
す。ひとりでも多くの学  
生さんが、精神看護学に  
興味・関心を抱き、常に  
研究的な視点を持ちなが  
ら精神科看護について考  
え実践する、根気強い実  
践家&研究者に育つてく  
れることを大いに期待し  
ています。

人は、精神障がいの有  
無に関わらず、自分らし  
く生きる権利があり、す  
べての人が変化と可能性  
をもっています。その人  
らしく生きていくために  
は、さまざまな人とのつ  
ながりが必要です。

Students, Be Ambitious.  
既存の事実にと  
らわれず、多くの経験を  
積んで個性を磨き、自己  
成長を遂げてほしいと思  
います。私自身も学生さ  
んとともに喜び、ともに  
悩み、ともに成長したい  
と思っております。どう  
ぞよろしく願ひいたし  
ます。

このようなストレス社  
会と揶揄される現代社会  
において、精神的ケアに  
対する看護師への期待は  
大きく、求められる能力  
も多様化、複雑化してい  
ており、看護基礎教育に  
おいて精神看護学の教育  
がとても重要であると考  
えています。精神的ケア

私の主な研究テーマは、  
「統合失調症者とその家  
族に対するケア」「精神  
科看護師の実践能力の開  
発・向上についての研  
究」「多職種協働による  
アウトリーチ支援に関す  
る研究」です。看護は実  
践の科学です。どのよう  
なケアが人々に癒しをも

る看護師となるかを  
考えて教員生活を過ごし  
てきました。これからも  
その姿勢は変わりません。  
前任校でも、在学生が  
よく部屋を訪ねてきてい  
ました。また、多くの卒  
業生が何年たっても連絡  
をくれるだけでなく、訪  
ねてくれていました。

佐賀大学でも研究室の  
ドアは開けておきます。  
気軽に看護のこと、学校  
のこと、佐賀のこと、そ  
の他いろいろなことを語  
りに来て下さい。お待ち  
しています。

も多かつたからです。  
精神看護学が「保健婦  
助産婦看護婦学校養成所  
指定規則」の教育内容と  
してカリキュラム上に初  
めて位置付けされたのは  
1996年です。それま  
では「成人看護学」の一  
部として「精神疾患と看  
護」という名目で統合さ  
れていました。つまり、  
精神科看護としての歴史  
は長いですが、精神看護  
学としての専門性の歴史  
は非常に浅く、そのため  
精神科看護の効果やその  
方法を研究として明らか  
にする取り組みは、私が  
教員となつてからの17年  
でも劇的に進歩していま  
す。

平成25年1月1日付け  
で、医学部先端心臓病学  
講座(寄付講座)の教授

に就任しました尾山純一  
です。1992年に九州  
大学を卒業後、同大学循



人は(人に限らずすべ  
ての生き物に当てはまる  
ことだが、他者との関  
わりなしに社会生活を送  
ることは不可能であろう。  
自分の知るところ、ある  
いは知らないところでだ  
れかからの恩恵を受け、  
だれかに何かを与えてい  
る。それはときにはギヴ  
&ギヴの関係やテイク&  
テイクの関係であるかも  
しれない。しかし、長い  
人生をトータルすればギ  
ヴ&テイクの関係、つま  
りプラマイ・ゼロとなる  
ように仕組まれているに  
違いない。

昨年のことだったろう  
か。ある女性漫画家の言  
動に対する話題がイン  
ターネット上を中心とし  
て盛り上がった。彼女は  
飛行機で乗り合わせた1  
歳くらいの子供の泣き叫  
ぶ声に耐えきれず、いわ  
ゆる「プチ切れた」。ち  
っちゃん赤ん坊を飛行機に  
乗せるべきではないと母  
親に注意し、航空会社に  
もクレームをつけたとい  
うことである。賛否両論  
があるだろう。疲れ切っ  
ているのに耳元で泣かせ  
ないでという声、もった  
いである。一方、自己中  
心に過ぎるという考えも  
あろう。

その後、同じように泣  
き叫ぶ赤ん坊を題材とし  
た話が次々に紹介された。  
赤ん坊の泣き声がうるさ  
いからバスを降りるよう  
に運転手が求めたところ  
うなだれて降りる母親に  
続いて、一般の乗客が  
次々に降りて運転手に抗  
議の意を示したというア  
メリカでの話。かたや日  
本でも、自分の子供の大  
きな泣き声を周りに気兼  
ねして(「なんとも日本  
人的なこと」)満員のバ  
スを降りようとした母親  
その母親の目的地がまだ  
先であることを知った運  
転手が、赤ん坊は泣くの  
が仕事なので、しばらく  
我慢して欲しいとアナウ  
ンスしたところ車内から  
拍手が起こったという話  
も。

この手の話を聞くと、  
なんだかホッとする。  
「情けは人のためなら  
ず」。ひとつふたつのこ  
とをギヴできる心のゆと  
りを持ちたいものである。  
もともと、車内や飲食店  
などの公共スペースで走  
り回る子供に注意もせず、  
見て見ぬふりの保護者に  
ついては言語道断。子供  
を連れてくる資格なしと  
いわれても当然であろう。  
部屋中に響き渡る、20  
数年ぶりに聞こえてくる  
力強い生命の証に悩まさ  
れながらも感動し、睡眠  
不足のために眠い目を擦  
り擦り、やっとこの原稿  
を仕上げる事ができた。

(河野)



環器内科に入院して以来、循環器疾患の治療と研究に携わってきました。医師免許を取得して以来、冠動脈疾患の急性期治療の傍ら、研究においては慢性心不全の治療と病態生理の解明に努めてきましたが、10年ほど前より研究及び診療の幅を広げ、睡眠時無呼吸症候群の診断と治療や、慢性心不全における非薬物療法なども行なってきました。

今回本講座では、睡眠時無呼吸症候群や慢性心不全に対する非薬物療法、特に補助呼吸療法や遠隔モニタリングを用いた在宅診療と研究を行ってまいります。

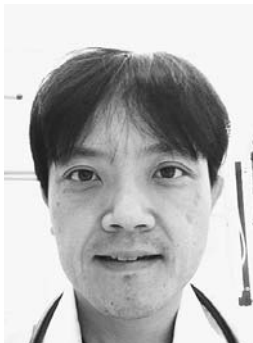
睡眠時無呼吸症候群は特殊な病気ではなく、日本では全人口の4%と言われており、推計200万人の患者が存在と言われていますが、なかなか気がつきにくく、治療を受けている方がまだまだ少ないのが現状です。そのような患者さんを早期から治療することで、最終的にはQOL及び予後の改善を目指しています。

また研究としては、時間生理学と言われる分野の研究を行なっています。動物は体内時計を有しており生体リズムを司っていますが、現代人は夜間のブルーライトや夜更かし、不規則な生活などで、生体リズムの乱れが生じており、その乱れが生活習慣病につながっていると考えられています。しかし残念ながら、これらの関連性は実際に臨床の現場ではほとんど判っていません。そこで、本講座では臨床と基礎研究との間を橋渡しする研究も行なっています。基礎研究で明らかになってきたことが、実際に患者

さんや人の生体でどうなっているのか?ぜひ解明したいと考えています。現在の循環器診療は、従来の薬物療法に加えてカテーテルを用いたインターベンション治療が主体となつていますが、今後は在宅診療や予防を目指した心臓リハビリテーションや在宅モニタリング、さらに医用工学機器

を用いた診療、そして究極的には再生医療と、今までの概念に囚われることなく将来の可能性を見据えた診療や研究が行われています。

ぜひ若い学生さんやドクターの方々に興味を持って頂き、一緒に頑張っていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。



先進外傷治療学講座  
教授

井上 聡

皆様、初めまして。平成25年2月1日付けで先進外傷治療学講座(寄付講座)の教授に着任致しました井上 聡です。

1994年に東京医科大学を卒業後、初期研修で佐賀医科大学(現・佐賀大学医学部)の一般消化器外科にお世話になりました。東京都立駒込病院外科シニアレジデント、東京慈恵会医科大学外科助手を経て、2007年より米国、ロサンゼルスにありま

す。また研究としては、時間生理学と言われる分野の研究を行なっています。動物は体内時計を有しており生体リズムを司っていますが、現代人は夜間のブルーライトや夜更かし、不規則な生活などで、生体リズムの乱れが生じており、その乱れが生活習慣病につながっていると考えられています。しかし残念ながら、これらの関連性は実際に臨床の現場ではほとんど判っていません。そこで、本講座では臨床と基礎研究との間を橋渡しする研究も行なっています。基礎研究で明らかになってきたことが、実際に患者

さんや人の生体でどうなっているのか?ぜひ解明したいと考えています。現在の循環器診療は、従来の薬物療法に加えてカテーテルを用いたインターベンション治療が主体となつていますが、今後は在宅診療や予防を目指した心臓リハビリテーションや在宅モニタリング、さらに医用工学機器を用いた診療、そして究極的には再生医療と、今までの概念に囚われることなく将来の可能性を見据えた診療や研究が行われています。

ずとても悔しい思いをしたのを今でもよく覚えています。ですから留学の2年半の間は癌の基礎研究に没頭する一方でアメリカ人社会に入り込み、徹底的に英語をマスターする事にも専念しました。その後一時的に日本に戻り、外科医として診療をしていましたが、留学中の心のトキメキと米国で何とか臨床医としてやっていきたいという想いを捨てきれず、卒後13年目にして再渡米することを決意しました。

再渡米の目的はアメリカで外科医になることでしたので、Cedars-Sinai Medical Centerの基礎部門のスタッフとしてAssistant Professorとなり癌研究をする一方で、まずは米国医師国家試験であるUSMLEをパスする事にターゲットを絞りました。医学部を卒業して10数年以上経ってから始める国家試験の勉強は楽なものではありませんでした。計3ステップ、4回の試験を全て一度で合格する事ができました。

このように、外国人にとつて米国で(診療科によつて難易度の違いはありますが)医師としてやっていく事は容易な事ではありませんが、アメリカという国は「Equal Land of Opportunity」です。目標をもつて頑張れば機会を与えられ、自分のやりたい事ができます。私は始めた時期が遅かったのが少し悔やまれましたが、皆さんであれば豊富な選択肢があると信じております。

米国の8年余は苦しい事が多かったものの、それをカバーするに余ある収穫がありました。それは、二人の子供に恵まれた事、強い家族の絆が育まれた事(仕事、試験、就職活動などを同時にこなすには妻の理解と協力なしでは成し得ない事でした)、国境や職種の壁を越えてた皆さんの友人を得た事、それから外国でその国の人々と対等、時にはそれ以上にやって行ける自信がついたことです。

この度、ご縁があり佐賀大学医学部の救命センタリーに新設される先進外傷治療学講座のお話をいただき、帰国する事になりました。本国では外傷外科は一般外科と違い確立された分野ではなく、そのトレーニングシステムも含め欧米に学ぶ部分が多く残されています。私の目標は、従来までは一般外科にコンサルトしていた、外傷や急性腹症を中心とした救急患者を救命センターで完結できるシステムを作り、外科医の疲弊を少しでも軽減する事、学位取得などに興味がある学生や若手医師に英文論文作成や海外留学を斡旋して広い視野をもった医師になれるように協力する事です。

新任の挨拶をするところろが自分の経験談になつてしまいましたが、私の話に興味があり、将来海外に目を向けて自分を試みたいという方がいらした喜びで相談に乗りますので、遠慮なく救命センター内、先進外傷治療学講座の井上まで連絡してください。

佐賀県の救急医療をさらに発展させる事ができるような微力ながら頑張ります。学生の皆様と実習や授業などでお会いするのを楽しみにしています。どうぞよろしくお願い致します。

うやくアメリカ永住権もいただきました。こうして、ようやく準備が整い、いよいよ外科医としてのポジジョン取りとなりました。外科のプログラム、しかもカリフォルニア州のプログラムはとても難しく国家試験の点数が相当高くないと面接もしてくれない現実が待ち構えていました。全米のトップクラスが応募するプログラムへマッチング制度で真つ向勝負を挑んでも埒が明かないと判断し、UCLAに直談判した末にようやく外科チームに入り込む事が出来、外傷外科を中心に臨床に携わる事が出来ました。

このように、外国人にとつて米国で(診療科によつて難易度の違いはありますが)医師としてやっていく事は容易な事ではありませんが、アメリカという国は「Equal Land of Opportunity」です。目標をもつて頑張れば機会を与えられ、自分のやりたい事ができます。私は始めた時期が遅かったのが少し悔やまれましたが、皆さんであれば豊富な選択肢があると信じております。

米国の8年余は苦しい事が多かったものの、それをカバーするに余ある収穫がありました。それは、二人の子供に恵まれた事、強い家族の絆が育まれた事(仕事、試験、就職活動などを同時にこなすには妻の理解と協力なしでは成し得ない事でした)、国境や職種の壁を越えてた皆さんの友人を得た事、それから外国でその国の人々と対等、時にはそれ以上にやって行ける自信がついたことです。

この度、ご縁があり佐賀大学医学部の救命センタリーに新設される先進外傷治療学講座のお話をいただき、帰国する事になりました。本国では外傷外科は一般外科と違い確立された分野ではなく、そのトレーニングシステムも含め欧米に学ぶ部分が多く残されています。私の目標は、従来までは一般外科にコンサルトしていた、外傷や急性腹症を中心とした救急患者を救命センターで完結できるシステムを作り、外科医の疲弊を少しでも軽減する事、学位取得などに興味がある学生や若手医師に英文論文作成や海外留学を斡旋して広い視野をもった医師になれるように協力する事です。

新任の挨拶をするところろが自分の経験談になつてしまいましたが、私の話に興味があり、将来海外に目を向けて自分を試みたいという方がいらした喜びで相談に乗りますので、遠慮なく救命センター内、先進外傷治療学講座の井上まで連絡してください。

佐賀県の救急医療をさらに発展させる事ができるような微力ながら頑張ります。学生の皆様と実習や授業などでお会いするのを楽しみにしています。どうぞよろしくお願い致します。



UCLA 外科チームのメンバー

## オーストラリア留学体験記

医学科3年

江越 正敏

はじめに

今年の2月から3月にかけて、オーストラリアのメルボルンにあるモナシユ大学に短期留学する機会がありましたので報告します。この話を聞いて少しでも海外に関心を持って視野を広げていただければ幸いです。

オーストラリアの文化

「オーストラリア人はおおらかで細かいことは気にしない。でも日本人はすぐきまめで、きれいな考えを僕にぶつけてきました。」

確かに彼らはとてもおおらかですが、悪く言えば大雑把です。冷蔵庫に真っ黒のバナナが入っているし、食器もほとんど洗わずに食器洗い機につくこむ。洗濯物はうま

く洗えておらず、部屋干しのおいが残っていることも多々ありました。靴箱が無いため靴は床に放り投げられていました。戸惑うことも多かったですが、私もそんなにきれいな好きの方ではないので、次第に慣れて私自身も大雑把な性格に変化した気がしました。そして1週間もすればオーストラリアのことが大好きになっていました。

彼らの良いところは何と言っても、おおらかさ、そして陽気さです。留学中、英語疲れて元気がないとき、何度も元気をもらいました。昼間から仕事もせずにお金を稼ぐパフォーマーが大通りにたくさんいることに驚きました。マイクとスピーカー

おばさんや、移動式のピアノで曲のリクエストにこたえるお爺さん。私が一番好きだったパフォーマーは、スピーカーから流れる音楽にあわせて数人で交互に踊り続けるダンサー達でした。面白いのは、全く関係のなさそうな人たちが、突然彼らに交じってダンスを踊りだすことです。ダンサー達の中には日本人もいて、ダンスは国境を超えるものだと感じました。

こたえるお爺さん。私が一番好きだったパフォーマーは、スピーカーから流れる音楽にあわせて数人で交互に踊り続けるダンサー達でした。面白いのは、全く関係のなさそうな人たちが、突然彼らに交じってダンスを踊りだすことです。ダンサー達の中には日本人もいて、ダンスは国境を超えるものだと感じました。

オーストラリアでは休日でもなくてもバーベキューをすることや海に行くことは普通です。彼らは日本人よりも明らかに楽しそうです。私は民族という区切りで人を決めつけてしまうのは嫌いです。間違いなく日本人は彼らほど樂觀的ではないし、平日から海に行くような大人は少ないと思います。オーストラリアに行かれたなら、この陽気さをぜひエンジョイしてほしいと思います。

オーストラリアで学んだこと

私はオーストラリアで様々なことを知りましたが、英語や文化・伝統の奥深さ、そしてオーストラリアの海の美しさから、盛大な祭りまで。オーストラリアに行ったら、ぜひ海に行つて欲しいです。水平線に沈む太陽がこれほどまでに素晴らしいものとは思いませんでした。彼らに会ったとき、3時間ほど聞き入ってしまったのは忘れられない思い出です。祭りの良さ、海の良さも知ることができ、とてもいい経験でしたが、オーストラリアでの経験で一番伝えたいことはそれらではありません。実は私は英語が苦手で、英会話にはとても労力を使っています。それで最初の1週間は英語疲れてしま

い、家に帰ったらすぐに寝てしまし、日本人と日本語を話してしまいうことさえありました。しかし「これではいけない。せっかつく親と学校に払ってもらったお金を無駄にしてしまう」と思い、必死に英語で話しました。毎日、ホームステイマザーと話すようにし、必死に英語を聞き取り、拙い英語で話続けました。そうすると、あることに気づきました。英語が話せなくてもこんなに伝わるものか」と。ホームステイマザーには私の将来の夢、そして誰にも言っていない秘密まで全部話し、かなり理解してもらったような気がしました。マザーはとても私に親切にしてくれました。今ではとても感謝しています。

人とコミュニケーションをとるときに一番大事なのは話す意志、伝えようとする意志だと思っています。それは英語でも日本語でも変わらないものではないでしょうか。最初の1週間、私は、英語から逃げてばかりいました。話す意志が全くな

かったわけですから当然です。でも話す意志を持つてからは違いました。マザーとも理解し合うことができ、英語も確実に上達しました。初めて海外に行く場合には、ぜひ他者と会話する意志をもつて行つてく

ださい。当たり前のことを言っているようでおかしいかもしれませんが、話す意志はとても重要です。英語が上手に話せないからって、相手が気難しそうだからって、話す意志を捨ててはだめです。これさえ持ち続ければ留学はきつとうまくいくでしょう。

今回に今回の留学で得た経験や知識をこれからの学生生活に生かしていきたいと考えています。もし海外留学に興味がある方がいらついたら、ぜひ声をかけてください。今後も毎年、海外で英語の勉強を続けたいと考えているので情報交換しましょう。

最後に海外留学の機会を与えて下さった諸先生方、佐賀大学国際交流推進センターの皆様、本当にありがとうございます。ごさいました。あらためて御礼申し上げます。

おわりに 今回の留学で得た経験や知識をこれからの学生生活に生かしていきたいと考えています。もし海外留学に興味がある方がいらついたら、ぜひ声をかけてください。今後も毎年、海外で英語の勉強を続けたいと考えているので情報交換しましょう。





# 第26回東アジア医学生会議について

佐賀大学医学部医学科 5 年 平岡 知浩  
3 年 星野 健  
2 年 高橋 大地・三島 康大

2012年12月26日～30日まで、東京医科歯科大学を会場として、アジア各国の医学生が集まる第26回東アジア医学生会議(East Asian Medical Students' Conference: EAMSC)が開催されましたので報告いたします。

この会議は、アジア医学生連絡協議会(AMSA)が年に2回開催している国際会議のうち冬に行われるもので、今回は4年半ぶりに日本で開催されることになりました。「災害医療」というテーマの下、専門の先生による基調講演や、グループディスカッション、自国の災害についての論文発表やポスターコンペティションなど様々なプログラムが用意され、日本だけでなくアジア各国に特徴的な災害やその対処などについて深く学び議論する場となりました。会議中は同じ国の人と同じにならないようグループ分けがされており、20人ほどのグループメンバーと友好を深めつつ、お互いの国のことを知ることができました。

佐賀大学からは運営委員として医学科5年の平岡知浩と、グループの班長として3年の星野健、2年の高橋大地、三島康大が参加しました。この会議の開催にあたり、濱崎医学部長ならびに諸先生方には多大なご協力をいただき、改めて厚く御礼申し上げます。

## 【Day 1】

### ◆Registration



各国から長旅を終えた参加者が到着し、到着の手続きをした。あちこちで到着を喜ぶ声が上がり、ハグも随所でみられた。

### ◆Icebreaking

各グループ毎に日本の遊び(フルーツバスケット、福笑い、etc)を用意して参加者とともに遊んだ。初めはみんな緊張していたが、Icebreakingが終わるころには打ち解けて、笑顔もみられた。

### ◆Opening Ceremony & Keynote Lecture



全ての参加者が初めて一堂に会し、6日間にわたる会議の開会が宣言された。

### ◆Welcome Party



東京医科歯科大の23階で東京の夜景を見ながら、グループごとに集まっての夕食。日本到着後初めての落ち着いた夕食だけあって、多くの参加者の笑顔が見られた。会場には東日本大震災の写真を展示したギャラリーも設置された。

## 【Day 2】

### ◆Breakfast



ホテルでのバイキング形式の朝食。一日のパワーを充電です^^

### ◆Academic WS



災害時のトリアージの方法について、外部から講師を招いてレクチャーを受けました。実際に模擬患者役を作ってトリアージを訓練しました。

### ◆Group Discussion 1



東日本大震災を参考に作られたシナリオを使って、被災地における問題注出を行いました。Discussionが始まると参加者からは多くの質問が出て、白熱した議論となりました。

### ◆Site Visit (防災館)



池袋と本所にある防災館に行き、消火器体験、地震体験、煙体験、暴風雨体験等を行いました。自国では遭遇することの無い災害を実際に体験し、貴重な経験になったようです。

### ◆Sightseeing

各グループごとに、東京観光に出かけました。浅草で伝統文化に触れたり、スカイツリーに上ったりと思いいに日本を満喫しました。



文責：星野 健

## 【Day 3】

### ◆Paper Presentation

3日目にはPaper Presentationがありました。各国の代表がPaper(論文みたいなものですね)を発表します。どの国も非常にすばらしいPaperを作成していて、あっと驚かされましたね。海外の医学生の医学的水準を知りたい方にはお勧めです。自分たちと比べてみるとビックリするかもしれませんよ。



### ◆Hospital visit

午後にはHospital visitとして東京女子医大に行きました。九州とは異なり関東方面では地震が頻発しており、DMATの装備を見せていただけるなど防災への意識の高さも伝わってきました。首都における拠点病院であり、高度医療を行える設備が整っているため、海外の医学生たちもそれを真剣に観察していました。



## 【Day 4】

### ◆Poster/Movie Competition

Poster/Movie Competitionは各国が作成してきた医療に関するポスターや動画を皆で鑑賞して1番を決めるというものです。医療といっても、洪水に対する予防、手洗いの重要性などの公衆衛生みたいな一般の人にもわかりやすいテーマもあります。



### ◆WHO lecture



Competition終了後はWHO職員の方に講演を行っていただきました。たいへん印象的なお話でした。  
文責：三島 康大

## 【Day 5】

### ◆Group Discussion 2 & Presentation



最後のDiscussionでは、災害医療についてこの会議中話したことをまとめ、他のグループに向けて発表しました。それぞれのグループが劇や演説など工夫を凝らした発表を行い、非常に盛り上がりました。

### ◆Cultural WS

ここでは、押し花入りのしおり・アカペラ・おにぎり作りを通して、参加者たちに日本の文化に触れてもらいました。初めておにぎりを作った参加者も居て、慣れない手つきでおにぎりを作っていました。



### ◆Closing Ceremony

いよいよ閉会式。各プレゼンの表彰や、福島県知事への千羽鶴の贈呈が行われました。



### ◆Cultural Night

EAMSCの最後を飾るのは、盛大なパーティー。各国の参加者は、自分たちの国の歌や踊りを披露しました。日本からの参加者達はAKB48のダンスで会場を大いに沸かしていました。



文責：高橋 大地

## 【今後のAMSA JAPANの活動】

AMSA JAPANはこれからも、アジアの医学部生との絆を深めるべく様々な活動を行っていきます。今年の夏には、「The Incoming Tide of Community Medicine」をテーマにマレーシアでAMSC2013が、そして冬には韓国でEAMSC2014が行われる予定です。今回のEAMSC2013に負けるとも劣らない熱い国際会議が開かれます。国内でも春と秋に国内交流会を行うなど、日本中の医学部生をつなぐ活動も行っています。AMSAと関わってみたい!!という熱い思いを持っている方は、AMSA JAPANを私達と一緒に運営していきましょう。日本の、そしてアジアの医療について一緒に考えてみませんか? 興味がある方は、2年・高橋大地 s-m.bb.daichi2611@ezweb.ne.jpまでご連絡ください。

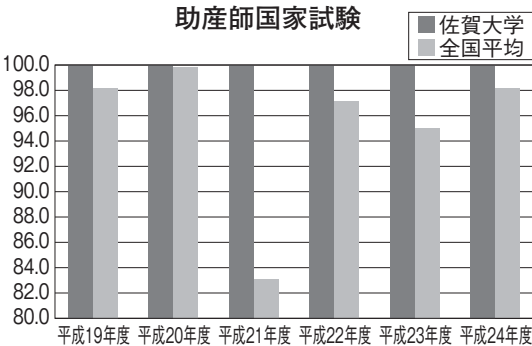
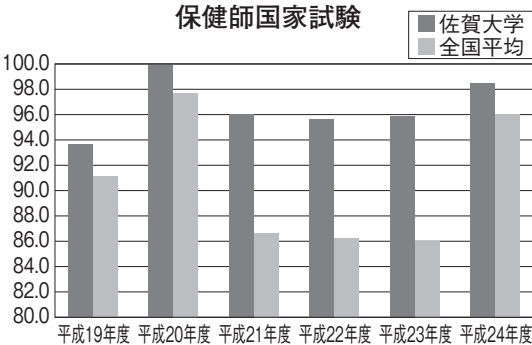
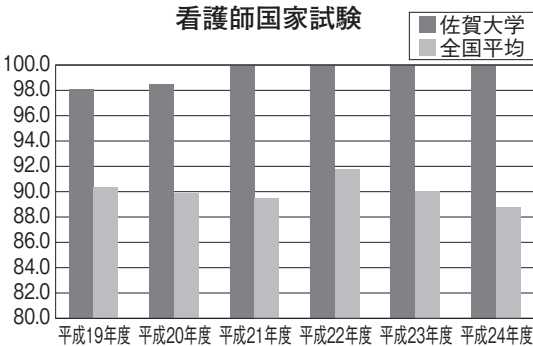




# 国 家 試 験

去る 3 月18日に第107回医師国家試験、同月25日に第102回看護師、第99回保健師、第96回助産師国家試験の合格発表がありました。本学受験者の合格率は、医師国家試験で新卒者が100名中94名合格（94%、全国平均93.1%）、既卒者を含めると、112名中103名が合格（92%、全国平均89.8%）で、いずれも全国平均を上回る好調な結果となりました。看護師と助産師は100%で全員合格です。保健師は新卒 1 名の不合格という結果になりました。

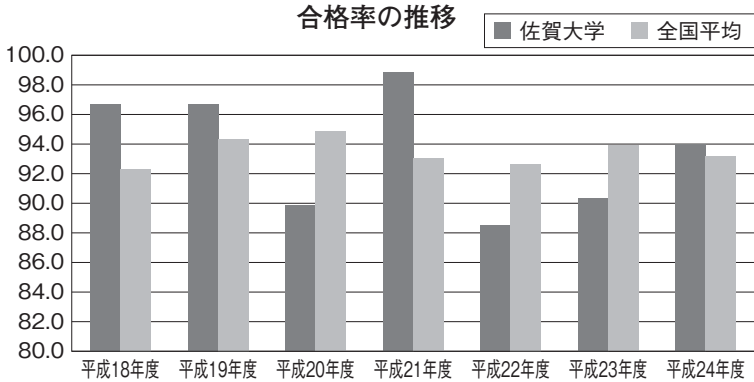
## 看護系国家試験・合格率の推移 （H19～H24・既卒者を含む）



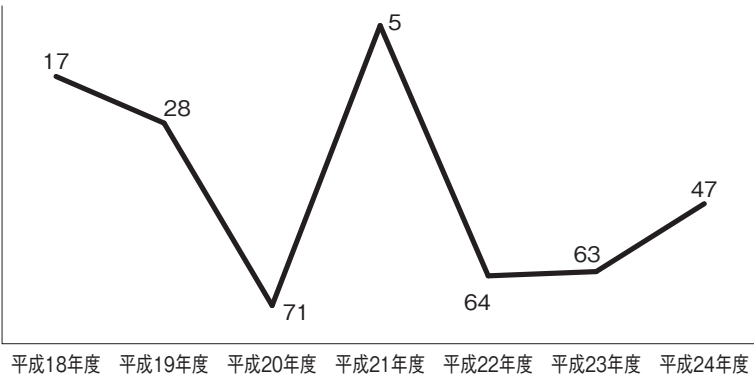
## 平成24年度 国家試験合格状況

合 格 率				
	佐賀大学（新卒）	佐賀大学（既卒）	佐賀大学合計	全国平均
医 師	94.0% (94/100)	75.0% (9/12)	92.0% (103/112)	89.8%
看護師	100.0% (60/60)	—	100% (60/60)	88.8%
保健師	98.5% (67/68)	—	98.5% (67/68)	96.0%
助産師	100% (5/5)	—	100% (5/5)	98.1%

## 医師国家試験データ（H18～H24・新卒者のみ）

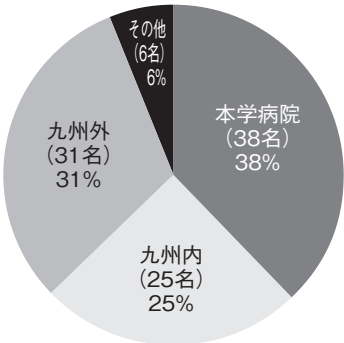


## 全ての医学部80校中の順位

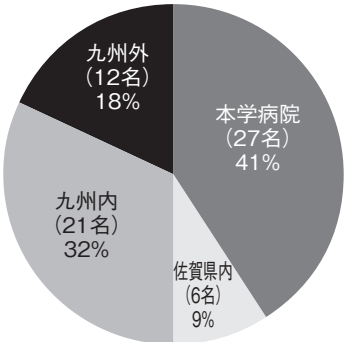


## 卒業生就職先

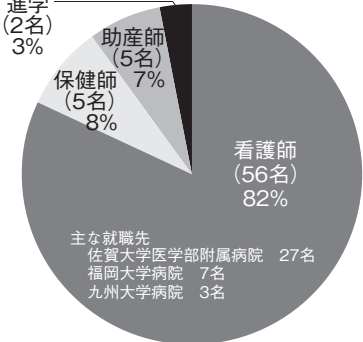
### 医学科地域別進路



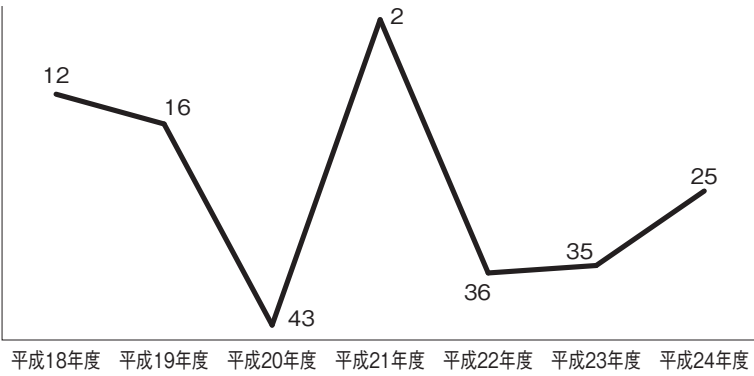
### 看護科地域別進路



### 看護学科職種別進路



## 国立大学・全43校中の順位



## 編集後記

去る 3 月25日に卒業式が行われ、160余名が巣立ちの時を迎えた。佐賀に残る者、九州を離れる者など前途は様々であるが、それぞれの新たなステージでより一層の飛躍を望みたい。なお本年度は医学科卒業生の約4割が本学での研修を選択した。データには示さなかったが、この中の半数以上は県外出身者である。決断に至るまでに相応の悩みや葛藤があったことは想像に難くないが、佐賀の地に何らかの魅力を見出してくれたのもまた

事実であろう。佐賀県あるいは大学に恩返ししたいと考えた者もいたかもしれない。ただし、出身大学の医局で研修するのが半ば当然であった時代を知る身から言えば、4割という数字は決して満足できる数字ではない。より求心力のある大学を造っていくことも教員に課せられた責務であろう。本号では新任教授挨拶、国家試験の結果に加え、学生諸君のアクティブな課外活動報告を特集した。忙しい学業の合間をぬって寄稿してくれた5名の学生さんには心より感謝申し上げます。詳しくは（倉岡）

本文をお読みいただきたいが、感受性の豊かな青年期にこうした国際感覚を磨くことは、長い人生における大いなる糧となる。今回の記事掲載をきっかけに、活動がさらに広がっていくならば編集者として望外の喜びである。学生諸君からのさらなる積極的投稿を期待したい。なお、新たな編集委員として、新地教授、柴田助手に就任して頂いた。新地教授は短歌集を出版するなど文芸の才に秀でておられ、新風を吹き込んでもらえるものと期待するところである。（倉岡）

## 新聞編集委員

倉岡晃夫教授（編集長）  
河野 史教授、新地浩一教授、尾崎岩太准教授、柴田健太郎助手、徳田悠希子(研修医1年)、野上愛、吉田紀子(医6)、森下さくら、草場香那、牟田口真理(医5)、壹岐聡一郎、合田夏希、鈴木源晟、橋本健太(医4)、尼寺那佳子、沖藤悠貴、中道あずさ、藤井玲衣奈(看4)、竹藤徳子、溝内絢子、坂井美月(看3)、岩永鴻之介(医2)  
**要望などの連絡先**  
学生サービス課総務  
gkseigkm@mail.admin.saga-u.ac.jp

## 編集部からのお知らせ

医学部学生新聞では掲載記事を随時募集しています。研究室での実習体験、課外活動報告、音楽・書籍評論、グルメ情報、あるいは身の回りの出来事に題材をとったエッセイなど何でも構いません。旅先でのお気に入り風景写真の一葉でも歓迎です。ぜひ活字媒体にして一生の思い出を作ってみませ

んか。記事は電子ファイルで編集長までお送り下さい(kura@csaga-u.ac.jp)。お待ちしています。また学生編集委員の空席もあります。Dutyは最低限ですので、兼部もまったく問題ありません。医学部の歴史に名を刻もうという情熱あふれる学生さん、ぜひ門を叩いて下さい。（倉岡）